

資料 5

(R1. 8. 15Ver)

第2期
豊川市スポーツ振興計画(仮称)
の素案

令和2年3月
豊川市教育委員会

目次

第1章 計画の基本的事項	1
1. 計画策定にあたって	1
2. 本計画における生涯スポーツの定義	3
3. スポーツ推進の意義	3
4. 計画の位置付け	4
5. 計画期間	4
第2章 現状と課題	5
1. 豊川市のスポーツ環境	5
2. 豊川市のこれまでの主な取組	9
3. 市民意識調査結果	10
4. 豊川市のスポーツに関する課題	17
5. 総括	19
第3章 計画の基本的な考え方	20
1. 基本理念	20
2. 成果目標	20
3. 本計画の体系	21
第4章 基本施策	22
1. スポーツに親しむ機会の創出<する> <みる>	22
2. スポーツを楽しむ環境整備<ささえる> <いかす>	23
3. スポーツ施設等の整備・充実	24
第5章 計画の推進	25
1. 推進体制	25
2. 評価と見直し	25

第1章 計画の基本的事項

1. 計画策定にあたって

(1) 世界の動向

■SDGs

2015 年の国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための、2030 年を年限とする 17 の国際目標です。17 の国際目標の下に 169 のターゲット、232 の指標が定められています。SDGs の特徴としては、次の 5 つが挙げられます。

- 「普遍性」：先進国を含め、全ての国が行動
- 「包摂性」：人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」
- 「参画型」：全てのステークホルダーが役割を
- 「統合性」：社会・経済・環境に統合的に取り組む
- 「透明性」：定期的にフォローアップ

(2) 国の動向

■スポーツ基本法

スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的として平成 23 年に成立しました。

■第2期スポーツ基本計画

「スポーツ基本計画」はスポーツ基本法の理念を具体化し、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となってスポーツ立国の実現を目指す上での重要な指針となるものです。第2期スポーツ基本計画は平成 29 年に策定され、以下の 4 つの基本方針の下に施策が展開されています。

また、同計画はスポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働することや障害者スポーツの振興やスポーツの産業化などの重点施策が盛り込まれていることなどが特徴的です。

- 1 スポーツで「人生」が変わる！
- 2 スポーツで「社会」を変える！
- 3 スポーツで「世界」とつながる！
- 4 スポーツで「未来」を創る！

■スポーツ実施率向上のための行動計画

スポーツ実施率が上昇傾向にある一方で、成人の半数近くはほとんどスポーツをしていないという状況を踏まえて、スポーツ実施率の向上を目的に平成 30 年に策定されました。

スポーツ実施率向上のための具体的取組として、以下の 3 つの観点から取り組むべき施策がまとめられています。

〔1〕施策の対象

①全体 ②子ども・若者 ③ビジネスパーソン ④高齢者 ⑤女性 ⑥障害者

〔2〕施策の段階

①スポーツをする気にさせる施策 ②スポーツをするために必要な施策 ③スポーツを習慣化させるための施策

〔3〕施策に取り組むべき主体

①国 ②地方自治体 ③産業界 ④スポーツ団体等 ⑤医療福祉関係者 ⑥学校等

(3)愛知県の動向

■いきいきあいちスポーツプラン

愛知県では平成 30 年に「いきいきあいちスポーツプラン」が策定されました。同計画は「学校と地域における子どものスポーツ機会の充実」「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」「住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備」「競技力の向上を目指す取組の推進」の 4 つの基本施策の下、取組を展開するとともに、各基本施策が相互に連携し、活力ある「スポーツ愛知」の実現を目指すものとなっています。

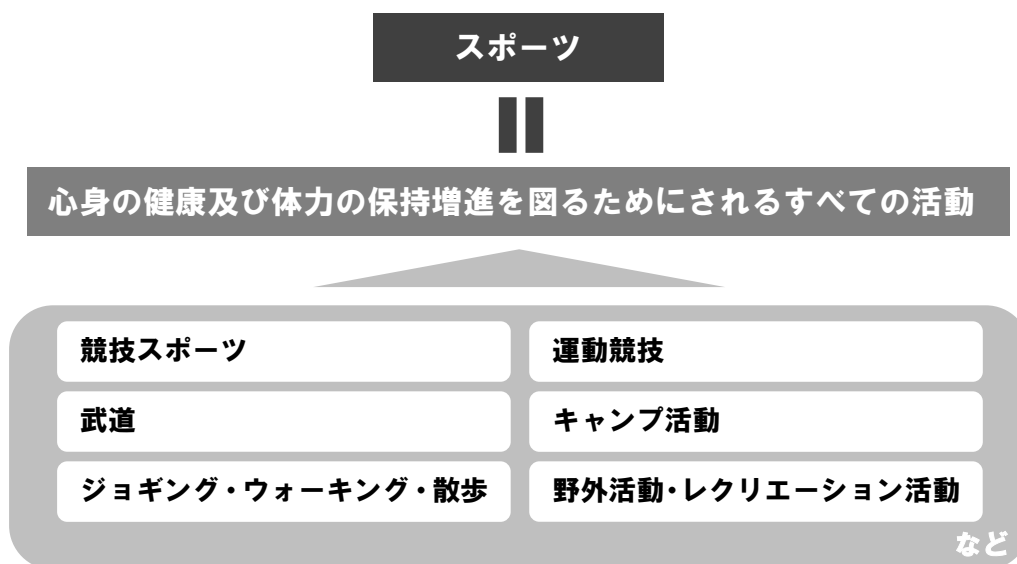
(4)豊川市の動向

豊川市では「健康・仲間・人づくり！笑顔あふれるスポーツの盛んなまち豊川」を基本理念とし生涯スポーツ社会の実現を目指す「豊川市スポーツ振興計画」を平成 22 年 3 月に策定しました。平成 26 年度に見直しを行い「豊川市スポーツ振興計画（改訂版）」に基づき、スポーツの振興に関する取組を進めてきました。

しかし、この度「豊川市スポーツ振興計画（改訂版）」が令和元年度で計画期間を終了することから、世界、国、愛知県の動向を踏まえつつ、「第 6 次豊川市総合計画」など上位関連計画との整合を図りながら、より時代に即した効果的なスポーツ施策を推進するために「第 2 期豊川市スポーツ振興計画」を策定します。

2. 本計画における生涯スポーツの定義

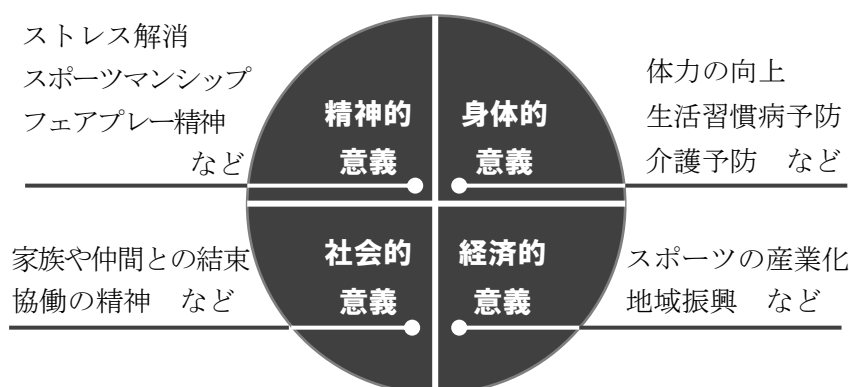
本計画は、「スポーツ」を幅広く捉え、競技スポーツだけにとどまらず、運動競技、武道、キャンプ活動、ジョギング・ウォーキング・散歩、野外活動・レクリエーション活動など、そのレベルや内容にかかわらず、心身の健康及び体力の保持増進を図るためにされるすべての活動を本計画における「スポーツ」と定義します。



3. スポーツ推進の意義

スポーツは、体力の向上やストレスの解消、生活習慣病の予防、介護予防など心身の両面にわたり健康の保持増進に寄与する身体的・精神的意義があるだけでなく、家族や仲間、更には地域コミュニティの結束など社会的な意義も有します。子どもたちにとっては、スポーツを通してスポーツマンシップやフェアプレー精神を育むことにもつながります。

また、人口減少や急激な少子高齢化に悩む地方にとって、スポーツが地域活性化のため、産業や観光と結びつき、地方における地域振興の新たなアプローチとして重要な戦略となっています。

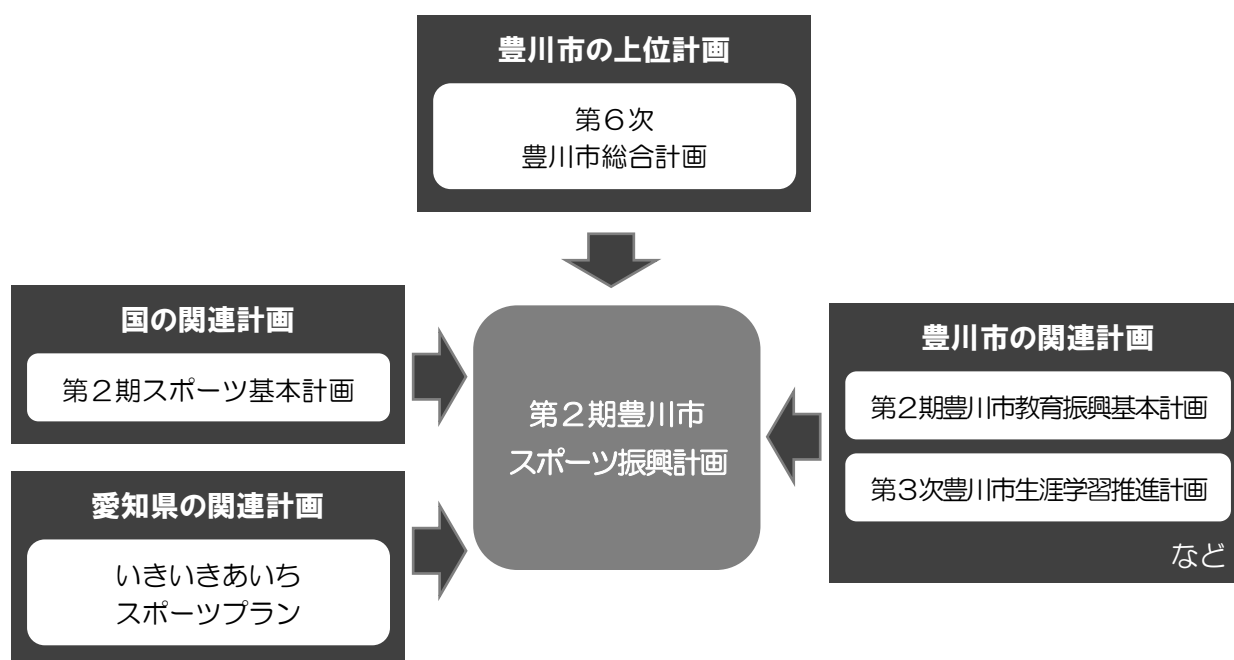


【スポーツ推進の意義のイメージ】

4. 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に規定する「地方スポーツ推進計画」にあたります。

また、国の第2期スポーツ基本計画や愛知県のいきいきあいちスポーツプランの趣旨・意向を踏まえるとともに、第6次豊川市総合計画、第2期豊川市教育振興基本計画など上位関連計画との整合を図りながら、本市のスポーツの推進における基本的な考え方や施策を示すものです。



5. 計画期間

本計画は令和2年度から令和11年度までの10年間を計画期間とします。また、計画の中間年次となる令和6年度には、社会状況の変化や計画の進捗状況等を踏まえ、見直しを行うこととします。

第2章 現状と課題

1. 豊川市のスポーツ環境

(1) スポーツ団体

① スポーツ推進委員会

豊川市スポーツ推進委員会は、昭和 36 年に豊川市体育指導委員会の名称で発足しました。同年、文部省（文部科学省）が「スポーツ振興法」を公布したことにより、体育指導委員（スポーツ推進委員）は非常勤公務員として法的に位置づけられました。また、平成 23 年に「スポーツ振興法」を全部改正した「スポーツ基本法」が公布され、「体育指導委員」の名称が「スポーツ推進委員」へと変更されました。

23 名での発足でしたが、宝飯郡 4 町との合併を経て、現在、スポーツ推進委員は 26 小学校区で 74 名が在籍しており、ニュースポーツの普及と実技指導、豊川市主催行事の運営・協力等、地域住民のスポーツ振興を目的とする様々な職務を行っています。スポーツ推進委員は、地域において最も身近なスポーツ指導者であり、その知識と経験を向上させるために、随時研修等を行い、職務に取り組んでいます。

② 体育協会

豊川市体育協会は、豊川市における社会体育の健全なる発達を図り、スポーツ精神の昂揚と市民体位の向上に寄与することを目的として、昭和 38 年に発足しました。令和元年度現在で 36 団体が加盟し、多種目にわたり、スポーツ機会の提供や普及・指導に取り組んでいます。

豊川市体育協会加盟団体(36 団体:令和元年度7月現在)			
軟式野球協会	バスケットボール協会	バレーボール協会	ソフトテニス協会
卓球協会	柔道会	剣道連盟	弓道会
陸上競技協会	サッカー協会	山岳会	スキー協会
レクリエーションクラブ	銃剣道連盟	バドミントン協会	水泳協会
テニス協会	ソフトボール協会	空手道連盟	クレイ射撃協会
ゲートボール協会	ボウリング協会	少林寺拳法連盟	グラウンドゴルフ協会
ソフトバレーボール協会	ペタンク協会	ゴルフ協会	スポーツダンス協会
パターゴルフ協会	空道協会	ビーチボール協会	日本拳法連盟
健康太極拳協会	スポーツチャンバラ協会	シュートボクシング連盟	フルコンタクト空手道連盟

③ スポーツ少年団

豊川市スポーツ少年団は、日本スポーツ少年団の目的に従い、地域の学校教育活動外において、スポーツを通じて青少年の心身の健全な育成を図るための活動団体であり、スポーツ活動だけでなく社会奉仕活動や団体相互の交流活動・仲間づくり等、幅広く活動しています。令和元年度現在で9種目 35 団体が活動しています。

豊川市スポーツ少年団登録団体(9種目、35 団体:令和元年度7月現在)		
軟式野球 (12 団体)	硬式野球 (2 団体)	空手道 (5 団体)
サッカー (7 団体)	少林寺拳法 (1 団体)	剣道 (4 団体)
バレーボール (2 団体)	ミニバスケットボール(1 団体)	ドッジボール (1 団体)

(2) 地域スポーツ

① 校区体育振興会

豊川市では、地域住民の健康増進と体力向上を目的として、26 小学校区にそれぞれ校区体育振興会が組織されています。校区体育振興会は、スポーツ推進委員や各地区で選出されている地区体育委員などが中心となり、それぞれの校区内で行われる市民体育大会の予選会や運動会、ニュースポーツを中心とした大会、教室など様々なスポーツ行事の企画・運営などを行います。

② 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブであり、子どもから高齢者まで多世代が、多様な種目のスポーツを初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加することができるという特徴を持つ、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

総合型地域スポーツクラブには、学校・地域連携や健康増進、体力向上、子育て支援などの地域の課題を解決するとともに、スポーツを通じて「新しい公共」を担う地域コミュニティの核として発展していくことが期待されています。豊川市では、現在、平成 15 年度より活動を開始した音羽スポーツクラブをはじめとして、わすぼ一宮、こざかいスポーツクラブの 3 クラブが活動しています。

(3)スポーツ施設等

① 市スポーツ施設等

スポーツ課が所管（指定管理施設・直営施設）する 25 カ所のスポーツ施設のうち、平成 30 年度は平成 25 年度よりも 14 施設で利用者数が減少しています。また、利用者総数も平成 25 年度から平成 30 年度にかけて約 6 万人減少しています。

市民意識調査によると自宅でスポーツをする人の割合が増加しているほか、市内の民間施設を利用する人も増加しています。活動場所が分散したことが、市のスポーツ施設の利用者数の減少に影響している可能性があります。

施設名	施設概要	利用状況(人)	
		平成 25 年度	平成 30 年度
総合体育館	○アリーナ ○サブアリーナ ○トレーニング室 ○ミーティングルーム等	287,137	271,897
陸上競技場	○日本陸上競技連盟第 3 種公認全天候型競技場 ○400m (8 レーン) ○115m (9 レーン) ○トレーニングコース (約 500m) ○管理棟等	70,663	78,234
市野球場	○観覧席 ○ナイター設備等	29,158	25,482
市サッカー場	○A コート (105m×68m) ○管理棟 ○B コート (60m×40m・ナイター設備)	18,685	16,393
弘法山公園野球場	○ナイター設備	2,290	1,276
本野原第一公園広場	○ナイター設備	2,450	1,977
市庭球場	○クレートコート (8 面) ○ナイター設備	58,684	52,572
桜ヶ丘公園庭球場	○ハードコート (3 面) ○ナイター設備	9,479	10,122
スポーツ公園野球場	○野球場 (1 面) ○散策路 ○芝生広場	2,812*	35,414
市プール	○50m (9 コース) ○25m (10 コース) ○幼児用プール ○幅広すべり台 ○管理棟	34,217	12,212
武道館	○アリーナ ○柔道場 ○弓道場 ○ミーティング室	88,635	92,645
野外センター (きららの里)		-	6,871
農業者トレーニング センター	○アリーナ ○会議室 ○視聴覚室等	55,597	34,519
一宮体育センター	○体育室 ○事務室	18,141	21,558
東上野球場	○ナイター設備 ○倉庫	14,817	8,004
足山田野球場	○バックネット ○ダッグアウト ○スコアボード	10,060	6,108
上長山庭球場	○クレートコート (4 面) ○ナイター設備 ○多目的広場	10,150	12,117
いこいの広場	○ゲートボール場 (5 面) ○多目的広場等	7,485	4,488
音羽運動公園	○多目的広場 ○庭球場 (砂入人工芝：4 面) ○弓道場 (遠的) ○デイキャンプ場 ○会議室	24,989	28,370
御津体育施設	○第 1 アリーナ ○第 2 アリーナ ○弓道場 ○庭球場 (砂入人工芝：2 面)	65,125	84,276
三河臨海緑地内臨海球場	○野球場 ○ソフトボール場	73,585	21,343
御幸浜パターゴルフ場	○コース (18 ホール・パー72) ○天然芝	7,659	6,826
小坂井庭球場	○砂入人工芝 (2 面)	8,859	9,876
柏木浜パターゴルフ場	○コース (18 ホール・パー72) ○天然芝	16,253	11,858
小坂井 B & G 海洋センター	○室内温水プール ○25m (6 コース) ○幼児用プール ○ジャグジー	76,556	78,087
合計		993,486	932,525

※スポーツ公園野球場の平成 25 年度の数値は一般利用分

② 学校開放体育施設

本市における昨年度の学校開放体育施設の実績は、平成 25 年度には 424,030 人の利用がありました。平成 30 年度には 382,633 人と全体的に減少傾向にあります。ただし、中学校弓道場及び中学校卓球場では利用者数が増加しています。

市のスポーツ施設と同様に身近な場所や市内の民間施設でスポーツをする人の増加が、学校開放体育施設の利用者数の減少にも影響している可能性があります。

学校開放体育施設		利用者数	
		平成 25 年度	平成 30 年度
体育館 (屋内運動場)	小学校	200,304 人	194,823 人
	中学校	83,207 人	77,051 人
	小計	283,511 人	271,874 人
運 動 場	小・中学校	90,296 人	63,410 人
中 学 校 武 道 場		40,548 人	34,122 人
中 学 校 弓 道 場		1,320 人	1,520 人
中 学 校 卓 球 場		8,355 人	11,707 人
合	計	424,030 人	382,633 人

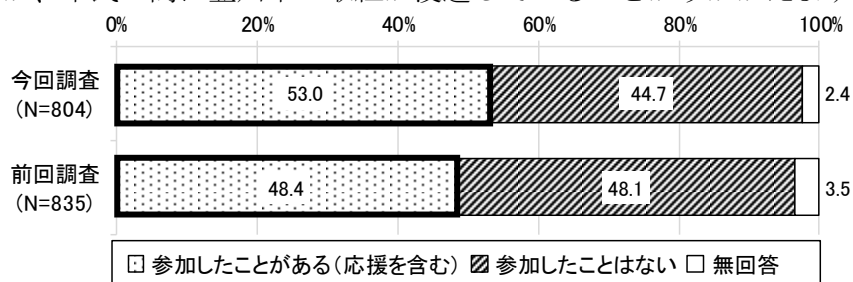
(4) スポーツ指導者

本市におけるスポーツの指導は、スポーツ推進委員が 26 小学校区で 74 名が在籍しており、ニュースポーツの普及や実技指導等を行っています。また、体育協会、スポーツ少年団等では競技種目に精通したスポーツ経験者が指導を行っています。

一方で、スポーツ指導者の登録と派遣を行うスポーツボランティア事業は、平成 14 年度の創設時は学校関係の支援やスポーツ競技の指導を行っており、登録者数も 51 名をかぞえました。しかし、平成 26 年度以降は派遣要請が停滞し続け、事業のニーズ、必要性が創設時から大きく低下した実情を鑑み、平成 29 年度をもって同事業を廃止しました。

2. 豊川市のこれまでの主な取組

市民意識調査によると、市や校区体育振興会などが主催するスポーツ事業に参加したことがある人は53.0%で、平成25年度の前回調査時から増加しています。また、平成25年度から平成30年度にかけての各事業の参加者数をみると、スポーツフェスティバルは大きく減少していますが、その他の事業はおおむね横ばいか増加しています。このことから、少しずつではありますが、市民の間に豊川市の取組が浸透していることがうかがえます。



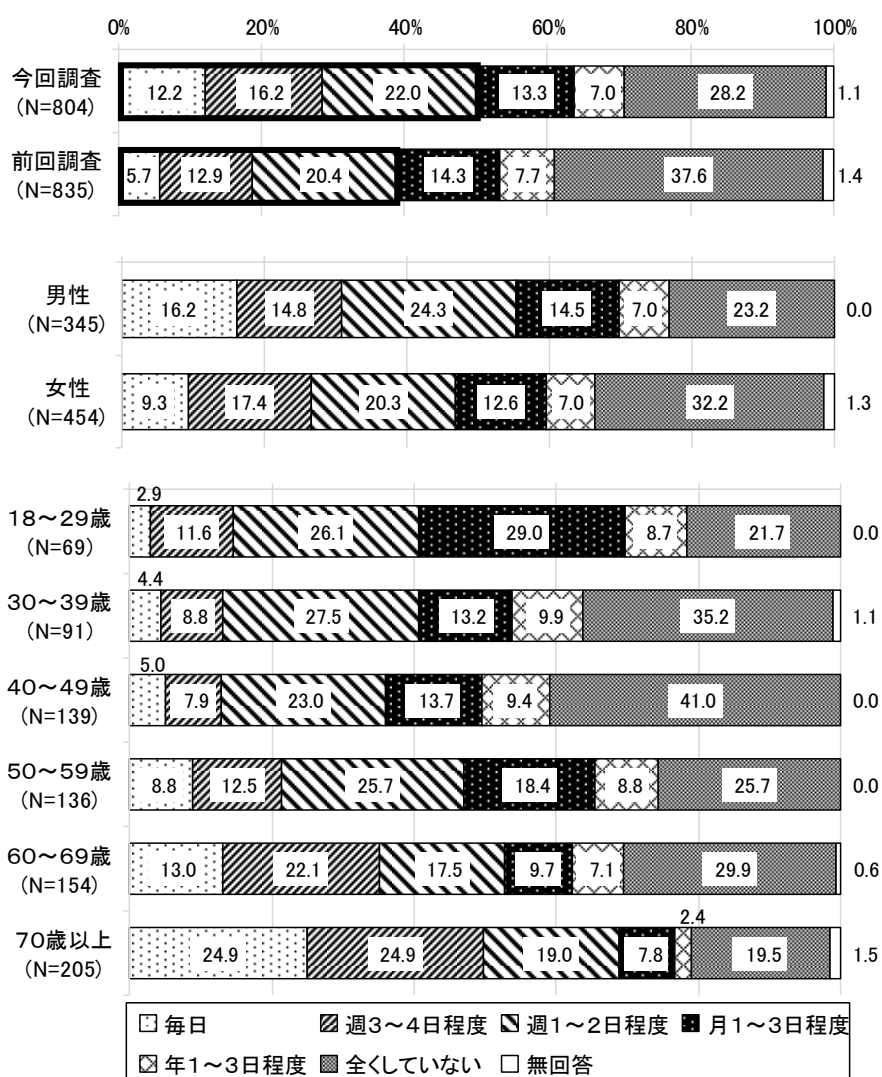
事業名	事業概要	参加者数(人)	
		平成25年度	平成30年度
豊川リレーマラソン	1チーム4人～10人のチームでタスキをつなぎ、42.195kmを走ります。	2,621	3,491
豊川市スポーツ少年団運動適性テスト	団員の体力を測定することで、運動の基礎となる能力や身体の動きを総合的に判定し、運動の適性をとらえる。	612	534
豊川市民水泳大会	市内に在住、在学、在勤の小学生以上を対象にした水泳大会を実施。	442	272
豊川市市民体育大会	多くの市民がスポーツに親しみ、健康増進やスポーツマンシップの高揚を図りつつ、市民相互の親睦ときずなを深めることを目的として、小学校区対抗の体育大会を実施。	2,685	2,514
スポーツフェスティバル	「体育の日」を中心に市内の体育施設を使用し、体育協会加盟団体ごとスポーツ教室・大会を実施。	5,423	4,034
豊川市内事業所対抗総合体育大会	市内の従業員概ね50名以上の事業所が参加し、各種競技を行い事業所ごとに総合得点を競います。	1,339	1,398
豊川市スポーツ少年団交流大会・奉仕作業	スポーツ少年団員が指導者や母集団の協力のもと、各種競技を行い、少年団の交流を図る。また競技終了後、豊川公園内を清掃、奉仕活動を行います。	624	567
トヨカワシティマラソン大会	10km(1～5部)、5km(6～9部)、3km(10部、11部、ジョギングの部)の3部門によるマラソン大会。	2,598	2,306
中学校区スポーツ交流事業	各中学校区において年3回程度、スポーツ推進委員会を中心に行うスポーツ交流事業を実施。	557	827
ニュースポーツ出前教室	各小学校区においてスポーツ推進委員会を中心にニュースポーツなどの大会や教室を行う。	4,024	4,263
トップアスリートふれあい交流事業	トップレベルの競技者や指導者によるスポーツ教室や講演会などを開催。	-	200
豊川市・設楽町スポーツ交流事業	豊川の上・下流地区のスポーツ交流を目的にスポーツ少年団の交流事業を実施。	30	53
ファミリーキャンプ	親子で参加できる家族が対象で、キャンプファイヤ、魚つかみ等を行う。	53	68
ウォーキング教室	保健センターと連携して、初級者向け「はじめるウォーキング教室」、中級者向け「たのしむウォーキング教室」専門的な「こだわるウォーキング教室」へと発展させたウォーキング教室を実施する。	-	81

3. 市民意識調査結果

(1) 豊川市のスポーツに関する市民意識調査

① するスポーツ

豊川市のスポーツ実施率は50.4%と前回調査時よりも増加しており、市民の間に運動やスポーツをする習慣が着実に定着していることが伺えます。ただし、年齢層別にみると70歳以上で高くなっている一方、40歳代の割合は低くなっています。全く運動をしていない人は30歳代、40歳代で特に高くなっています。スポーツをしていない理由をみると、忙しく時間がないことやきっかけがないこと、スポーツが嫌いあるいは苦手であることが挙げられています。スポーツが好きと答えた人ほど、スポーツ実施率や実施状況が高い傾向がみられることから、働き盛りの世代や子育て世代など忙しい人やスポーツが苦手な人も運動やスポーツに取り組めるようにきっかけづくりを行い、市民にスポーツ好きになってもらうことが大切です。

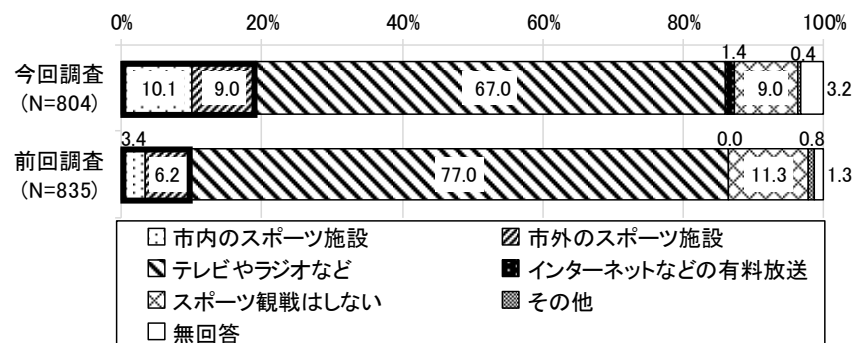


	スポーツが 嫌い・苦手	関心がない	忙しい・ 時間がない	仲間がいない	お金がかかる	指導者が いない	場所がない
18～29歳(Ⅳ=15)	26.7	40.0	73.3	13.3	20.0	6.7	13.3
30～39歳(Ⅳ=32)	25.0	18.8	78.1	18.8	12.5	3.1	6.3
40～49歳(Ⅳ=57)	28.1	15.8	52.6	12.3	21.1	1.8	1.8
50～59歳(Ⅳ=35)	25.7	11.4	45.7	11.4	22.9	2.9	11.4
60～69歳(Ⅳ=46)	15.2	17.4	34.8	13.0	4.3	0.0	0.0
70歳以上(Ⅳ=40)	15.0	15.0	22.5	12.5	2.5	0.0	2.5

	きっかけが ない	スポーツをする 必要がない	健康上の理由	その他	無回答
18～29歳(Ⅳ=15)	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0
30～39歳(Ⅳ=32)	40.6	6.3	3.1	6.3	0.0
40～49歳(Ⅳ=57)	38.6	3.5	17.5	1.8	1.8
50～59歳(Ⅳ=35)	31.4	0.0	14.3	2.9	5.7
60～69歳(Ⅳ=46)	34.8	4.3	19.6	0.0	2.2
70歳以上(Ⅳ=40)	10.0	10.0	47.5	7.5	12.5

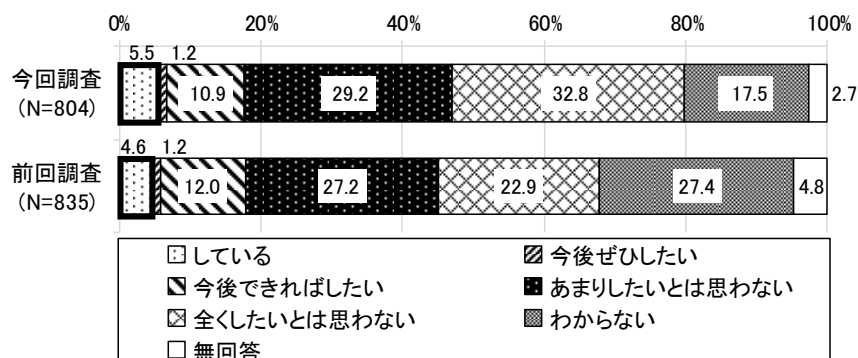
② みるスポーツ

スポーツ観戦率は19.1%となっており、前回の9.6%から倍増しています。



③ ささえるスポーツ

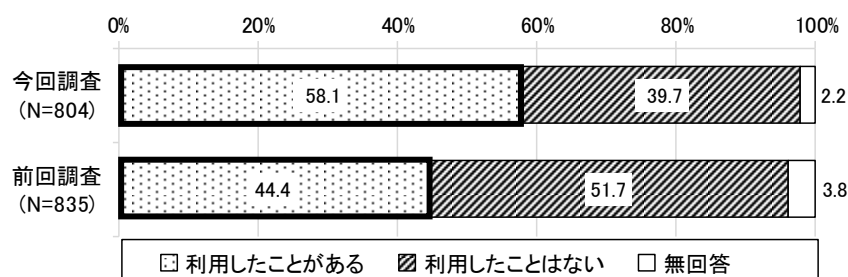
スポーツを支える活動をしている人は、5.5%となっており、前回調査時からあまり大きな変化はみられません。その一方で、「あまりしたいとは思わない」「全くしたいとは思わない」が併せて10ポイント以上増加しています。スポーツを支える活動をしていない主な理由としては、指導する技術がないことが挙げられています。多くの人の支えによって大会やチームの運営がなされるため、「支える」人材を育成することは重要な課題といえます。



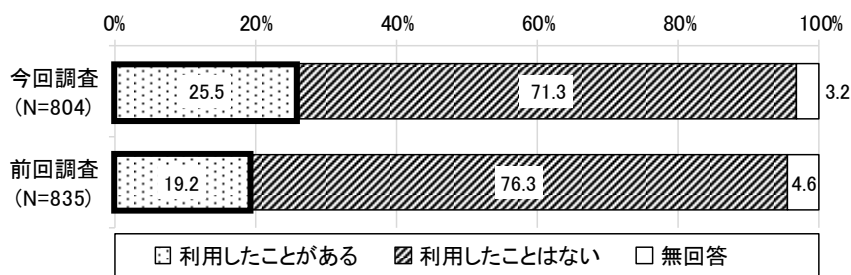
④ スポーツ環境・施設の整備

市内のスポーツ施設の利用状況をみると、体育施設が 58.1%、学校開放体育施設が 25.5% となっており、体育施設に関しては施設・設備の充実を求める意見が多くみられます。

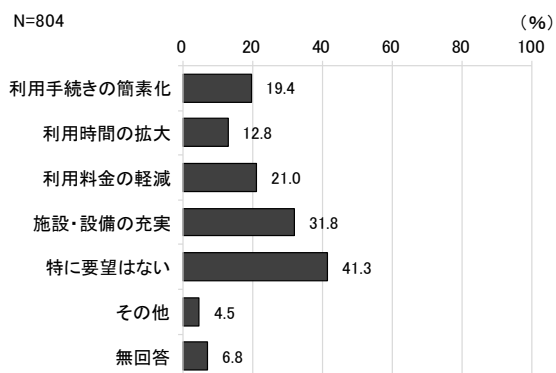
【市の体育施設の利用状況】



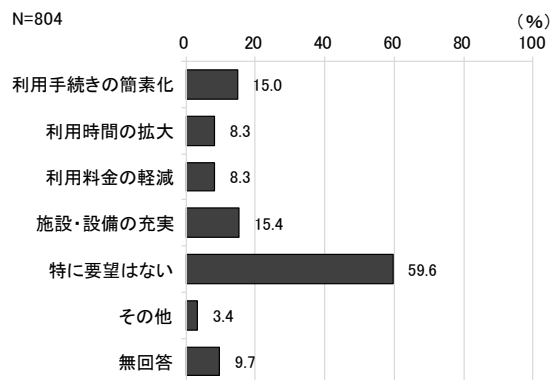
【学校開放体育施設の利用状況】



【市の体育施設への要望】

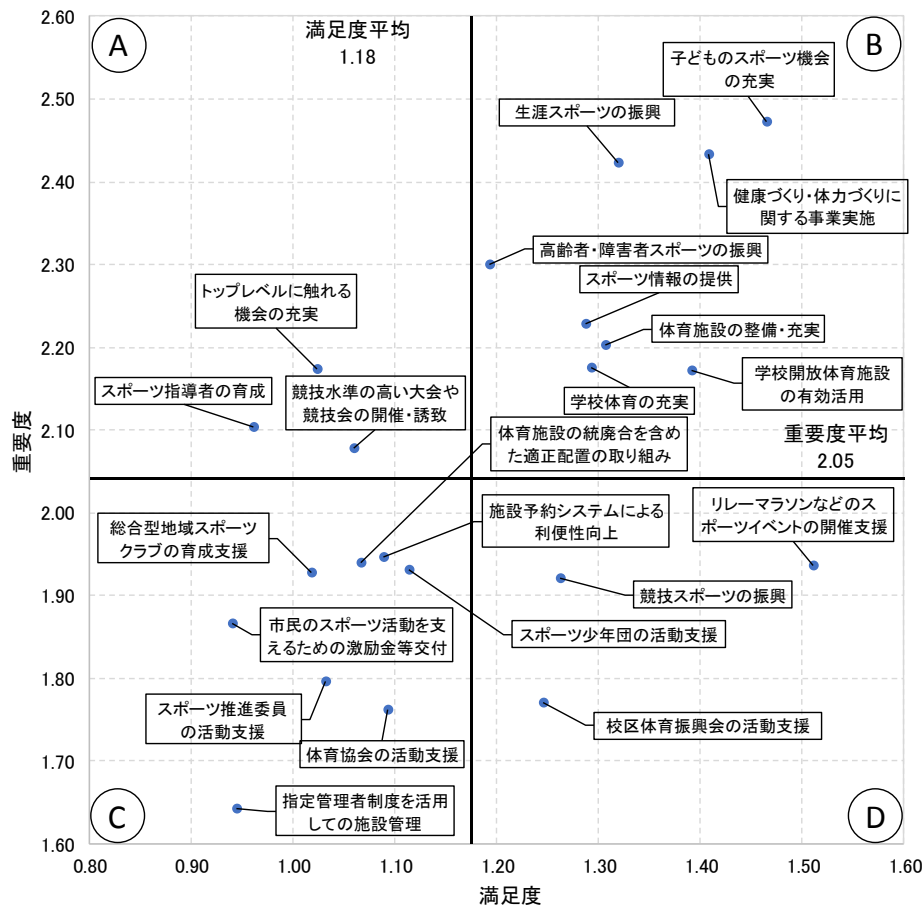


【学校開放体育施設への要望】



⑤ 施策の評価

以下のグラフは、これまで市が行ってきた施策の満足度と重要度を表しています。満足度の高い施策は「子どものスポーツ機会の充実」「リレーマラソンなどのスポーツイベントの開催支援」となっており、重要度の高い施策は「子どものスポーツ機会の充実」「健康づくり・体力づくりに関する事業実施」となっています。また、Aの領域の施策は、重要度が高いものの満足度が低いため優先した取り組みが必要だと考えられます。



スポーツが好きな人ほど、スポーツ実施率や観戦率、スポーツ支援活動に参加している、または参加する意思がある割合が高い傾向がみられます。市民にスポーツを好きになってもらうことが、それぞれ割合を高めることにつながり、さらに市民の健康の増進や交流の促進に結び付く可能性があります。

	スポーツ実施率	スポーツ観戦率	スポーツ支援活動の割合※
好き	69.8%	30.2%	31.0%
やや好き	56.5%	18.8%	13.7%
どちらでもない	33.9%	6.7%	9.0%
やや嫌い	23.1%	7.4%	8.2%
嫌い	14.2%	0.0%	6.1%

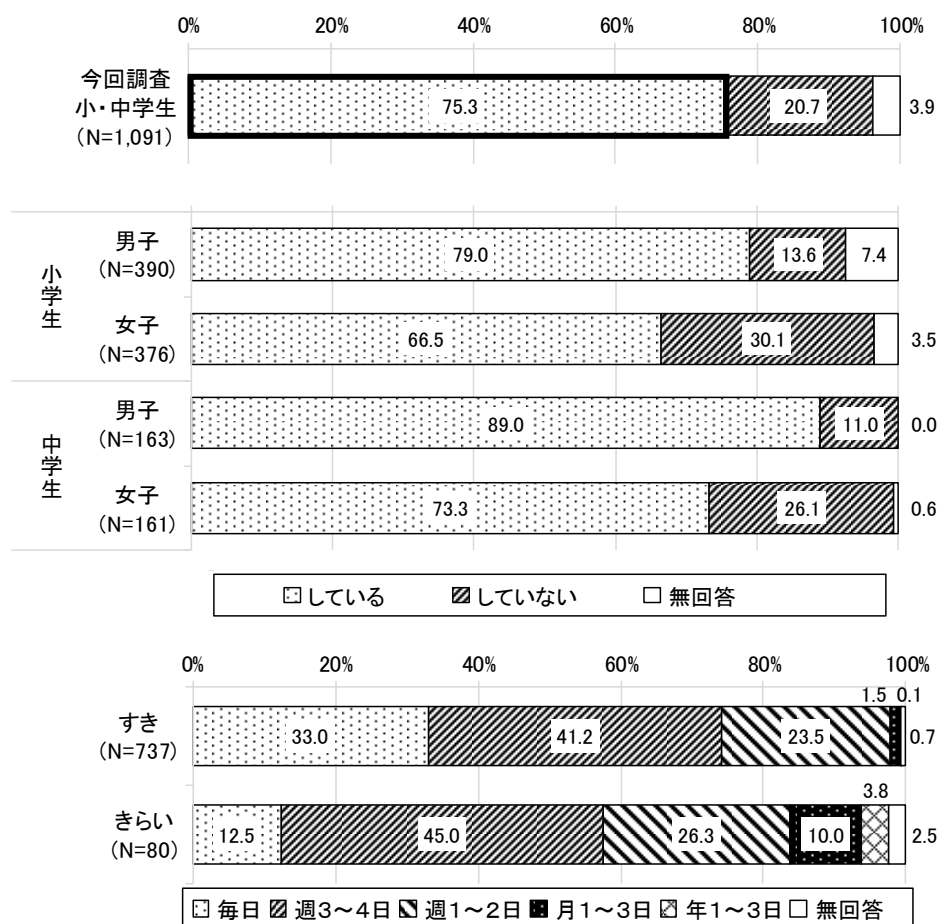
※スポーツの支援活動を「している」「今後ぜひしたい」「今後できればしたい」と回答した人の割合

(2) 小・中学生の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査

① するスポーツ

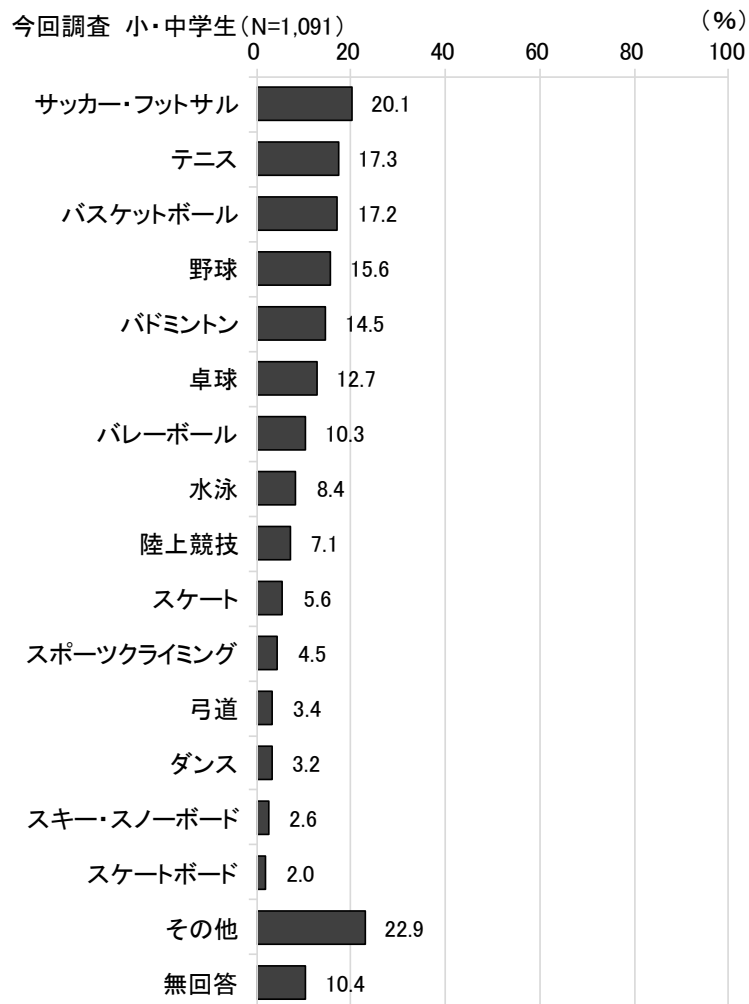
運動やスポーツをしている児童生徒は75.3%となっていますが、男子に比べ女子の割合が低くなっています。小学生の女子で特にその割合が低くなっており、行いたいと思うスポーツがないことが主な理由となっています。また、スポーツの好嫌別にスポーツの実施状況を見ると、スポーツがすきと答えたほとんどの児童生徒は、週に1回以上スポーツをしているのに対して、きらいと答えた児童生徒で週に1回以上スポーツをしているのは、8割半ばとやや差がみられます。

児童生徒がスポーツをしている場所をみると、中学生では男女ともに学校の部活動が8割を超えています。小学生では学校の部活動のほか、地域や民間のクラブや教室が多くなっています。また、小学生の男子ではスポーツ少年団も比較的多くあり、中学生に比べ、活動場所の選択肢が多いことがうかがえます。



		スポーツ少年団	地域や民間のクラブや教室	学校の部活動	学校のクラブ活動	その他
小学生	男子(N=299)	30.4	45.2	50.5	14.0	18.1
	女子(N=243)	9.5	48.6	58.4	9.5	30.9
中学生	男子(N=145)	10.3	29.0	83.4	9.0	14.5
	女子(N=118)	6.8	29.7	88.1	13.6	16.1

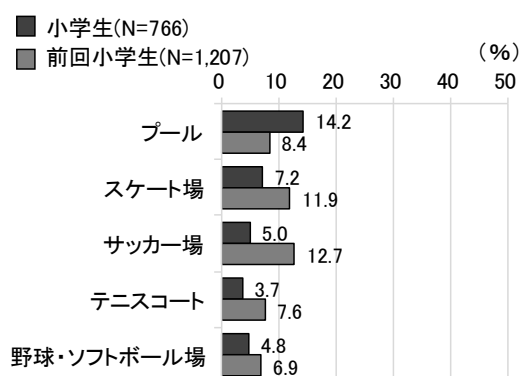
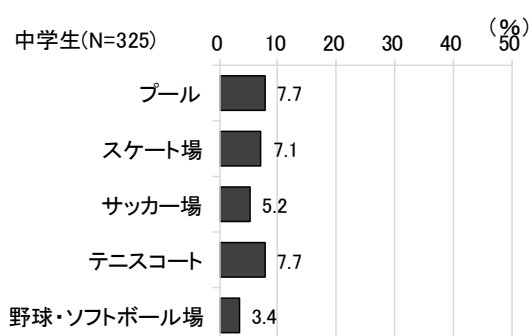
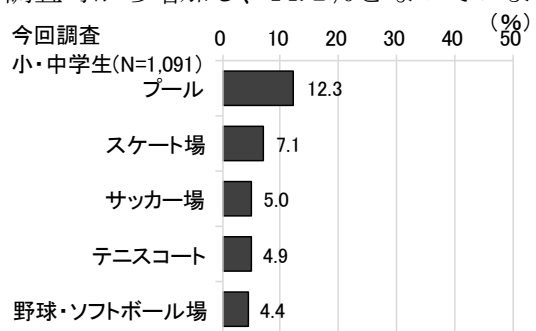
多くの児童生徒が興味関心を寄せているのは、サッカー・フットサルやテニス、バスケットボールなどの球技が多くなっています。男子は小・中学生ともにサッカー・フットサルへの興味関心が強く、女子では小学生がバスケットボール、中学生がバドミントン多くなっています。



		第1位		第2位		第3位	
小学生	男子 (N=390)	サッカー・フットサル	25.6%	野球	23.1%	テニス	17.4%
	女子 (N=376)	バスケットボール	21.5%	バドミントン	16.8%	サッカー・フットサル	16.5%
中学生	男子 (N=163)	サッカー・フットサル	20.2%	野球	19.6%	バスケットボール	16.0%
	女子 (N=161)	バドミントン	28.0%	テニス	22.4%	バレーボール	20.5%

② スポーツ環境・施設の整備

小学生・中学生ともにプールの整備を望む意見が多くなっており、特に小学生では、前回調査時から増加し、14.2%となっています。



4. 豊川市のスポーツに関する課題

豊川市のスポーツにおける現状及び市民のスポーツに対する意識を踏まえ、豊川市のスポーツに関する課題を抽出します。

課題①ライフステージに応じたスポーツの推進

豊川市ではこれまで市民がいつでも、だれでも、気軽にスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現を目指して取組を行ってきました。その結果、市民のスポーツ実施率は50.4%となり、39.0%だった平成26年度から、この5年間で10ポイント以上増加しました。ただし、40歳代では35.9%となっているなど年齢層によっては、スポーツ実施率が低い状況もみられます。さらに、施策の評価からは子どものスポーツ機会が多く市民から求められていることがうかがえます。そのため、子ども、成人、高齢者、障害者などライフステージに応じたスポーツの推進を図ることが大切です。

課題②スポーツに親しむことができる環境づくり

市民意識調査によると、スポーツが好きな人ほどスポーツ実施率や観戦率が高く、また、スポーツを支える活動に対しても前向きな姿勢を持っています。そのことから、これまであまりスポーツに関わる機会の少なかった人やスポーツがあまり好きではない人が、スポーツに親しみ、スポーツを好きになってもらうことが、スポーツの実施率や観戦率、スポーツに関する支援活動への参加率の向上につながることを期待されます。そのため、これまでスポーツへの関心の少なかった人がスポーツに親しむことができる環境づくりが重要になります。

課題③気軽にスポーツを観戦できる環境づくり

スポーツをスタジアムや体育館などのスポーツ施設で観戦することで、スポーツの持つ価値や感動を直接体験することができます。豊川市がこれまで行ってきた取組の結果、市民がスポーツ施設でスポーツを観戦する割合は、平成26年度の9.6%から19.1%と大幅に増加しています。しかし、「豊川市スポーツ振興計画（改訂版）」（以下「現行計画」という。）の目標であった20.0%には届きませんでした。そのため、引き続き市民が気軽にスポーツを観戦できる環境づくりに努めることが求められます。

課題④スポーツイベントの充実

これまで市が行ってきた施策の評価をみると、「リレーマラソンなどのスポーツイベントの開催支援」が、市民にとって満足度の高い施策となっています。こうしたスポーツイベントは、市の交流人口の増加などの効果が期待されます。そのため、リレーマラソンをはじめとするこれまで本市が開催を支援してきたスポーツイベントを市の内外の多くの方に参加していただけるよう改善して、継続していくことが大切です。

課題⑤スポーツを支える人材の育成

スポーツは競技を实践する選手だけではなく、それを支える指導者やボランティアなど多くの人々が関与して運営されています。市民意識調査によると、スポーツを支える活動をしている人は、5.5%にとどまっています。また、施策の評価においてはスポーツ指導者の育成は、優先した取組が必要とされています。そのため、スポーツ指導者やボランティアなどスポーツを支える人材を育成することが重要です。

課題⑥スポーツ団体の連携の促進

市内にはスポーツ推進委員会や総合型地域スポーツクラブ、体育協会、スポーツ少年団など様々な団体があり、市民のスポーツ活動を支えています。今後、より多くの市民が積極的にスポーツに親しむことができるように、スポーツ団体間の連携を促進していくことが大切です。

課題⑦スポーツ施設の整備・充実と利用促進

スポーツ施設は市民がスポーツをする、みる、ささえる場所であり、スポーツ振興を推進する上で基盤となる場所です。また、スポーツ施設を地域の資源として活用し、地域活性化に活かすことも考えられます。さらに、小・中学生の興味関心のあるスポーツはサッカー・フットサルやバスケットボール、テニスなどが中心ですが、スポーツクライミングやスケートボードなどへの関心もみられます。そのため、豊川市のスポーツ振興の基盤として、より多くの市民の方に利用していただけるようにスポーツ施設を整備・充実することが重要です。

5. 総括

これまで本市では、生涯スポーツ社会の実現を目指し様々な取組を推進してきました。その結果として、現行計画が策定された平成 27 年から令和元年までの 5 年間におけるスポーツ実施率及びスポーツ観戦率の増加につながったと考えられますが、スポーツを支える活動をしたことのある人の割合はほぼ横ばいと大きな変化はみられませんでした。スポーツ環境については、市のスポーツ施設の利用者数が近年、減少傾向となっており、自宅や市内の民間施設の利用が増加し活動場所が分散している様子がうかがえます。

一方、国では、平成 29 年 3 月に第 2 期スポーツ基本計画が策定され、スポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働することや障害者スポーツの振興、スポーツの産業化などの視点が盛り込まれました。また、世界に目を移すと、国連サミットの間では平成 27 年に「普遍性」「包摂性」「参画型」「統合性」「透明性」を特徴とする持続可能な国際目標「SDGs」が採択されています。

こうしたことを踏まえ、これまで着実に成果をあげてきた取組は、社会の動向に合わせながら引き続き推進していくとともに、忙しかったり機会がなかったりしてスポーツに関わることの少なかった市民に対しても、身近で気軽にスポーツを親しみ楽しめる環境づくりに努め、スポーツの持つ力を活かしつつ、多くの市民が健康で元気になるまちづくりを進める必要があります。

＜取り入れるべき視点＞

- ①好きだからスポーツを「する」「みる」「ささえる」。
- ②個人、団体、地域のすべての人がスポーツを楽しむ。
- ③スポーツによる交流や連携でまちが活性化。

第3章 計画の基本的な考え方

1. 基本理念

スポーツは、心身の健康や体力の維持・向上のためだけではなく、運動を楽しみ、喜びや感動を共有するものであると考えられています。

豊川市では、スポーツを通して障害や国籍などの違い、または「する」「みる」「ささえる」などのスポーツに対する立場の違いに関わらず、すべての人が仲よく、健康に生き生きと暮らすことのできるまちを目指します。また、市民のみならず、スポーツを通して地域全体が活性化するまちを目指し、以下の基本理念を掲げます。

スポーツ大好き！みんなが輝く元気なまち とよかわ

2. 成果目標

本計画の推進にあたり、成果目標を設定し、計画の進捗管理を行います。成果目標として基本目標ごとに以下の指標を設定します。

指標	現状値	目標値
【スポーツに親しむ機会の創出】 成人市民の週1日以上スポーツ実施率	50.4% (令和元年値)	65.0% (令和11年値)
【スポーツに親しむ機会の創出】 スポーツ施設で観戦している市民の割合	19.1% (令和元年値)	20.0% (令和11年値)
【スポーツを楽しむ環境整備】 スポーツ指導や支援活動を行う市民の割合	5.5% (令和元年値)	7.5% (令和11年値)
【スポーツ施設等の整備・充実】 スポーツ施設等の利用者数	1,213,110人 (平成30年度値)	1,340,000人 (令和10年度値)

3. 本計画の体系

本計画の体系を以下に示します。

【基本理念】

スポーツ大好き！みんなが輝く元気なまちとよかわ

【基本目標及び基本方針】

I スポーツに親しむ機会の創出 <する> <みる>

1. ライフステージに応じたスポーツ機会の充実
2. スポーツに触れる機会の提供

II スポーツを楽しむ環境整備 <ささえる> <いかす>

1. スポーツ活動の支援
2. スポーツ活動の支援を通じた地域の活性化

III スポーツ施設等の整備・充実

1. スポーツ施設等の整備・充実
2. スポーツ施設等の利用促進

第4章 基本施策

1. スポーツに親しむ機会の創出 <する> <みる>

人々のスポーツとの関わり方は、それぞれの年齢や性別、障害の有無、生活スタイル、目的などによって異なります。そのため、子どもや成人、高齢者といったライフステージに応じたスポーツ機会の提供のほか、障害者の方が気軽にスポーツ取り組めるようにすることや目的に合わせてスポーツをすることができるようにするなど、市民がそれぞれの立場からスポーツに親しむことができる機会の充実に努めます。

基本方針1 ライフステージに応じたスポーツ機会の充実

方策① 子供、成人、高齢者、障害者

*****。

基本方針2 スポーツに触れる機会の提供

方策① スポーツ教室やイベント等の提供

*****。

方策② トップアスリートに触れる機会

トップアスリートふれあい交流事業を通して、地元チームに所属するトップアスリートとの交流の機会を提供します。

2. スポーツを楽しむ環境整備 <ささえる> <いかす>

市内では体育協会などの団体や総合型地域スポーツクラブ、プロバスケットボールクラブなど様々な主体のスポーツ活動の展開や市の特徴を生かした豊川リレーマラソンなどのイベントによって、市民のする、みるスポーツをささえています。そうした豊川市のスポーツをささえる団体などへの支援を行うとともに、プロスポーツクラブや特徴的なスポーツイベントなどのスポーツを地域の資源として活用し、地域活性化を推進します。

基本方針1 スポーツ活動の支援

方策① 体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、体育振興会、総合型地域スポーツクラブ

*****。

基本方針2 スポーツ活動の支援を通じた地域の活性化

方策① スポーツイベントによる交流人口拡大

*****。

方策② スポーツ団体の連携

*****。

方策③ スポーツツーリズム

*****。

3. スポーツ施設等の整備・充実

スポーツ施設は市民がスポーツをする、みる、ささえる場となりますが、それに加えて、スポーツ施設自体が地域の資源として、他のスポーツに関する地域の資源や他分野と連携・協働することで、市の様々な目標の達成や課題の解決に資する場所にもなりえます。そのため、スポーツ施設を適切に管理、運営、修繕、活用するなど充実を図ります。

基本方針1 スポーツ施設の整備・充実

方策① スポーツ施設工事・修繕

*****。

方策② 学校開放体育施設の活用

*****。

基本方針2 スポーツ施設の利用促進

方策① 指定管理者制度

*****。

方策② 情報発信

*****。

方策③ 施設予約システム

*****。

第5章 計画の推進

1. 推進体制

**

- ① 市民
- ② 団体
- ③ 学校等
- ④ 市

推進体制について「市民」「団体」「学校等」「市」などの主体ごとの役割について記載します。

2. 評価と見直し

本計画の事業の進捗管理や評価の方法等について記載します。